

③-1 もっと活動を盛り上げる

事例1

自由なアイデアを募ります

多くの人に参加してもらうにはどうしたらいいか。うちの自治会では、レクリエーションの企画段階で検討委員会を開き、役員以外の住民も参加して、フリートーキングを行っています。

自由にアイデアを出してもらおうと、野球観戦、ボウリング、果物狩り、ホテル観賞など、役員だけでは考えつかなかったさまざまな案が出てきます。予算と実現可能性という2つの観点で更に検討を進め、次年度の催しを決定します。

「幅広い年齢層が参加できる」「働く世代が参加しやすい」「外出が億劫になりがちな高齢者が興味を持てる」など、フリートーキングをすれば、新しいアイデアが見つかりますよ。



ポイント

- ・ 制約をつけずに自由にアイデアを出す。
- ・ その上で、予算と実現可能性を考える。
- ・ 誰に参加してもらいたいかを念頭に置く。



事例2

「作業はみんなで」が基本です

イベントなどを行う時は、「ここは大事」という部分以外は、当日その場にいる人に声をかけて作業を頼みます。

事前にきっちり役割分担をすると、割り振られた人も緊張したり、負担に感じるかもしれません。大まかな段取りだけ組んでおき、あとはその場でお願いすると、皆さん喜んで作業してくれます。大人も子どもも、何かしら手伝いがあつた方が居場所ができて楽しいですからね。

②具体的に、どんなことを頼むのですか

- 焼き芋大会の場合、火の番、包み紙の準備、芋の配布など、基本的にはすべてです。
- 地域清掃の参加者に渡すジュースは、参加した子どもたちと買いに行き、配る手伝いまでしてもらいます。

②気をつけていることはありますか

- 集合時間前には集まらないようお願いしています。時間前から作業を始めると、時間どおりに来た人が気まずい思いをしますからね。清掃などは、みんなで作業することに意味があると思っています。
- 手持ち無沙汰になる人がでないように、参加者の様子を注意深く見守っています。
- 多少のハプニングがあつても気にしません。大抵のことはなんとかなると思っています。

事例3

住民ニーズの把握に努めています

- 組長に各組の要望や意見の取りまとめをお願いする時は、特定の人々の要望ではなく、みんなのニーズ・公益性のあるニーズを把握してもらいます。
- 住民が困っていることや改善したいことについて、アンケートを取りました。出された項目(道路拡幅やガードレールの設置など)は、自治会内で取り組むべきものと行政に依頼するものに分類し、全ての項目に対応しました。



事例4

反省点は次の機会に生かします

●問題点は記録に残して共有します

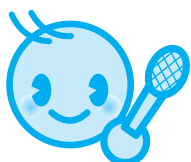
うちの自治会では、行事終了後の反省会とは別に、後日改めて関係者でミーティングを行っています。日が経つことで冷静な振り返りができ、内容も濃いものになります。

必須アイテムは“付箋”です。各自が思ったことを自由に書き出し、ぺたぺたと貼りながら話し合います。最終的にはそれをまとめて記録に残すことで、問題点を共有し、次につなげることができます。

●行事ごとに明細書をつくります

行事にかかった経費は、行事ごとに会計担当者名と精算整理日を入れた明細書を作ります。支出関係は、何をどこでどれだけ購入したかを詳細に記録します。また、余った物や足りなかった物も記録しておけば、次回実施時の参考になります。

収入関係は、会費についてだけでなく、例えば「たくあん1本」など差し入れを受けたものまですべてを記録します。



活動で心がけていることをお聞きしました!

●「かおなじみ」をスローガンに

安心して暮らせるまちを目指して、「かおなじみ」をスローガンに活動しています。自治会は、個人のことには立ち入れませんから、顔なじみ程度でいいと思い、顔を合わせて交流できるさまざまな行事を行っています。

●一緒にやる、話し合う

一緒に何かをやれば、会話も生まれ、仲良くなれます。それぞれの家庭で事情も違うでしょうから、どんなことなら手伝ってもらえるか、住民同士でよく話し合うことが大切だと思います。

●人が集まるきっかけをつくりたい

隣近所との関係が希薄になる中で人が集まることをしたいと思い、さまざまな催しを企画しています。大変なこともあります。やるとなれば、「参加して」「手伝って」となりますしね。楽しい催しをやることで輪を広げたいと思っています。

●イベントは「来たい人に来てもらう」

人集めはとても大変ですよ。だから私は、「来たい人は来てください」という姿勢で取り組んでいます。「楽しい」「楽しそうだな」と思われるものなら、広報するだけで、人は集まるのではないのでしょうか。

●合言葉は「自分たちのまちは自分たちで守ろう」

防犯・防災は1番大事なことだと思っています。そのため、「自分たちのまちは自分たちで守ろう」を合言葉に、防犯パトロールや防災訓練を行っています。

③ さらに楽しく、効果的な活動

③-1 もっと活動を盛り上げる

③-2 活動のアイデア

事例1

野球観戦に行きました

自治会のレクリエーションで、ドームに野球観戦に行きました。なるべく幅広い年齢層で多くの人に参加できるものと考えてのことです。

定員の倍の申し込みがあり公開抽選会をしたのですが、抽選会自体も盛り上がり、1つのイベントで2回分楽しめましたよ。

②イベントはどのように決めるのですか

- レクリエーション検討委員会を開いて、フリートークングをしてもらいました。さまざまなアイデアが出たのですが、予算や時期、子どもや高齢者のことまで広く検討した結果、野球を見に行こうということになりました。

②イベントを考えるときのポイントはなんですか

- さまざまな人が参加できることが一番だと思います。今回は、“幅広い世代で楽しめる”を視点に考えました。

②住民にはどのような広報をしたのですか

- あらかじめ年間の主な行事を広報紙に掲載し、周知しています。イベントの時期が来ると、回覧板をまわして参加者を募ります。



事例2

「ソバの会」は好評です

町内で活動している「男のソバうち同好会」の協力で、自治会行事として「ソバを食べる会」を集会所で開催しています。100名以上が参加する人気行事ですよ。

②住民にはどのような広報をしたのですか

- 町内の広報紙でお知らせし、全戸に申込書を配布します。申し込んだ人には引換券を渡します。参加費は100円です。

②当日の運営には人手が要りますね

- 同好会の会員が10数名と、あと組長と役員が総出でお手伝いをします。

事例3

盛大な餅つき大会をしています

毎年12月に、餅つき大会を行っています。大人から子どもまで100人以上の住民が参加して、100キロ前後のもち米をついています。

②住民にはどのような広報をしたのですか

- 町内の広報紙で日時をお知らせします。また、別途参加申込書を全戸に配布しており、その中にお手伝いを頼みたい内容や集合時間など、詳しいタイムスケジュールを記載しています。

②できたお餅はどうするのですか

- 会場では参加者につきたてのお餅やおこわをふるまいます。参加した子どもには、お土産に3つずつ渡します。また、手伝いをしてくれた人には1キロ600円で販売します。頑張ってくれた人には、それなりの権利があると思いますね。



事例4

最大行事は夏まつりです

うちの夏まつりは、近隣の人たちもたくさん集まる大行事です。夕食がてらに立ち寄り人、おかずを買いに来る人、ゲームの模擬店に集まる子どもたちなど大賑わいです。

模擬店は、体育部、衛生部などの部会ごとに出店しています。メニューがダブらないように、自治会が大まかなことを考えて、詳細はそれぞれの部にお任せです。

終わった後は「今年もよかったね」とみんなで話をします。うちの自治会では、次年度の組長予定者が副組長として1年間活動するのですが、この夏まつりは、副組長が行事に本格的に参加する絶好の機会にもなっています。

②住民への広報はどうしていますか

●各戸にプログラムを配布します。プログラムには福引の券をつけておいて、当日会場内の投票箱に入れてもらいます。会場で抽選会をするので、結構皆さん出て来てもらえます。

②経費はどう工面していますか

●自治会費のほかに住民からの協賛金で運営しています。額は決めていませんが、皆さん楽しみにしているので協力してくれますよ。

事例5

環境美化に取り組んでいます

以前はごみの問題がひどかったんです。マンションの集じん室は終日開放され、自由にごみを持ち込めたので、捨ててある本を読み、子どもたちが入り込んだり、衛生上も問題でした。

なんとかしなければという思いで管理組合や自治会で立ち上がりました。現在は集じん室の開放日を週1回2時間と決め、確認する当番を組ごとに全世帯に回しています。住民全員が環境について考える機会にもなるし、住民同士のコミュニケーションの場にもなっていますよ。

今では、環境問題への意識が高い自治会だと自負しています。

事例6

バスハイクに行きました

日帰りのバスツアーで、原鶴温泉など近場に行っています。温泉に入り、道の駅で買い物をし、近隣の名所などを回るコースです。参加費は2000円から3000円。参加者は40人くらいで、高齢者が多いです。

日帰りの範囲で目的地を選定していますが、「前に行ったことがある」「高齢者は〇時間以上はきつい」などの意見があり、行き先の選定がなかなか難しいですね。

参加して楽しかったら、次は友達を誘って来られたりしますが、来ない人にどうやって来てもらうかが課題ですね。

事例7

体育祭はお弁当を準備します

うちの自治会は校区の体育祭の時、手作りのお弁当を200人分用意して応援に来てくれた人にも渡しています。大変ですが大勢来てくれるのでうれしいです。

お弁当だけ受け取りに来た人には、「一緒に応援しようよ」と呼びかけています。



③-2 活動のアイデア

事例8

温もりのある催しをしたい

うちの自治会では、年に1回、70歳以上の高齢者を対象に、茶話会を行っています。

きっかけは、町内で一人暮らしの高齢者が孤立死をしたことでした。この事実強いショックを受けた私たちは、自分たちに何ができるかを話し合い、隣近所の付き合いをしようと茶話会を行うことにしました。

参加者からの会費は、弁当代込みで200円です。自治会費で全額賄うことも可能ですが、本人からも負担してもらおうようにしています。



❓工夫していることはありますか

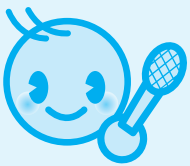
- 回覧板を使って広報しますが、最初はなかなか人が集まりませんでした。そのため、講師を呼んで健康づくりに関する話をしてもらうなど、内容もいろいろ考えました。今は、子ども会に声をかけ、小学生と一緒に楽しめるダーツやビンゴゲームなどを行っています。ゲームも非常に盛り上がり、参加者からは楽しかったと好評でした。

❓今後の課題はありますか

- 参加者が固定化してきているので、日ごろ隣近所との付き合いがない人や、一人暮らしの高齢者にいかに出て来てもらうかが課題です。高齢者って、さびしいと思っている人も多いと思うんです。「自分は忘れられていないんだ」と実感できることが大切だと思います。人間的に温かみのある催しが、自治会活動のスパイスになると思っています。

事例9

こんな敬老行事をやっています



敬老行事は、多くの自治会で行われています。

人間関係が希薄になる中で、こうした機会をとらえて顔を合わせておけば、災害時などいざという時にも役立ちますし、高齢者が地域活動に参加するきっかけにもなります。

● 民生委員とタイアップ

「敬老の日」祝賀会の開催時は、回覧板で参加者を募集すると併せて、民生委員と協力して対象者に案内状を持って行きます。出来るだけ顔を合わせられるよう、欠席者には、後日紅白饅頭を持って会いに行きます。

● 名札をつけて訪問

敬老の日に、800円程度のお菓子を持って、75歳以上の高齢者宅を訪問します。名札をつけて「自治会長です」と名乗り、楽しく世間話をしてきます。これをひとつのきっかけに、その後の交流が図られたらいいと思っています。

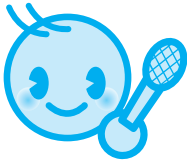
● 子ども達も参加

育成部や子ども会も一緒になって、6月に「敬老を祝う集い」を開催しています。6月に一緒にやることで、高齢者だけでなく、入学したばかりの新1年生の児童やその親も、初めて顔を合わせる場になっています。



事例10

一人暮らしの高齢者の生活を見守ります



「一人暮らしの高齢者がどこに住んでいるか」「プライバシー保護の考えがある中で、自治会として何ができるのか」。このような悩みを持ちながら、工夫して取り組みを行っている会長さんに話をうかがいました。

●二重三重の声かけを

日ごろの付き合いや情報交換から、どこに高齢者が住んでいるかを把握しておき、自治会のシルバー部や民生委員など、二重三重に声をかけ合う体制を作っています。

●日ごろから注意して

防犯パトロールの際、一人暮らしの高齢者で数日顔を見かけない人のところには、どうしているのか顔を見に行っています。

●機会をとらえて確認

市政だよりの配布時や回覧板をまわす時に、新聞がたまっていないか、雨戸が閉まりっ放しではないかなど、生活上の変化を組長が注意深く確認しています。

●時には訪問も

一人暮らしの高齢者で町内の餅つきに参加しなかったところには、餅を届けるのに併せて、民生委員に様子を見に行ってもらいます。

事例11

災害時の備えは万全です

うちの自治会では、平成18年に「地震発生時安否確認のための活動指針」を策定し、安否確認の活動をする人（構成員）の名簿を作りました。また、安否確認の対象者を特定しておき、担当する構成員を決めています。

きっかけは、平成17年に発生した福岡県西方沖地震でした。一人暮らしの高齢者が気になり様子を見に行くと、部屋の中で震えており、私の顔を見た途端ぼろぼろと涙を流されたのです。災害時に一人でいる不安や心細さは計り知れないものがあつたのだろうと痛感しました。

何かしたいという思いから策定した指針ですが、年数も経った今、構成員名簿の更新を計画中です。

先日は、安否確認の自主訓練も行いました。有事を想定して、『①参集、②安否確認対象者の役員宅を訪問、③対象者の様子を確認』という手順で行いました。

何もなかったが一番ですが、いざという時のために助け合える体制づくりは、日ごろから行っておくことが大切だと思います。

〈活動指針より〉

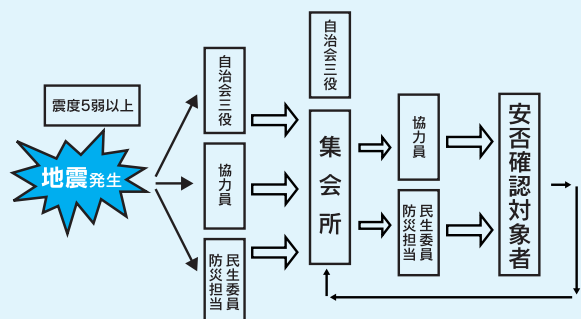
1. 安否確認の対象者

おおむね次の方々として。

- (1) 80歳以上の同居者
- (2) 70歳以上の夫婦
- (3) 65歳以上の独居者
- (4) その他必要と認める人

〔注〕この自治会では、別途、独自で会員名簿を作成している

2. 構成員の行動系統図



③-2 活動のアイデア

事例12

下校時の立ち番をしています

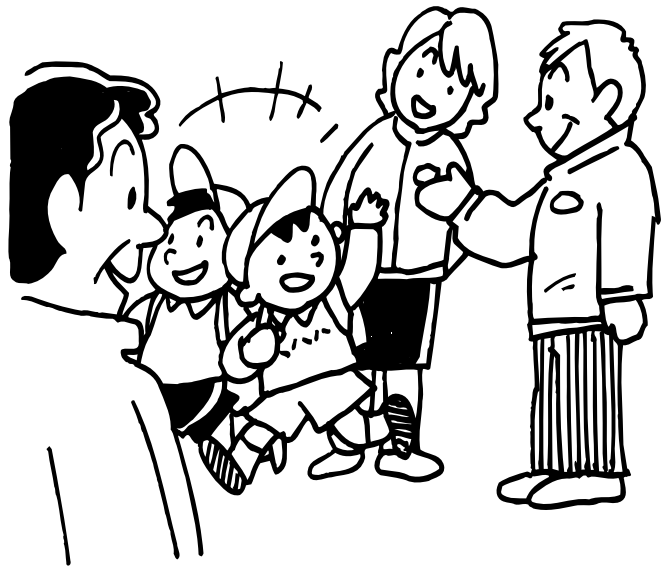
うちの自治会では、児童下校時の立ち番と、日に2回の防犯パトロールを行っています。

小学校からもらう下校時刻の予定表をもとに、『児童下校時立ち番予定表』を作って協力予定者に配布し、無理のない範囲で参加できる日を申告してもらいます。それをもとに、1ヶ月の予定表を作って参加者に配っています。「来られないときはいいですよ」と言っていますが、急に行けなくなった時などは、自主的に参加者同士で連絡を取り合っています。

終了後は「児童下校時立ち番日報」を作成し、気づいたことなどを申し送りします。

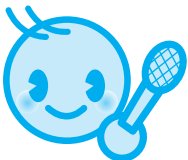
防犯パトロールも、事前に募った協力予定者のうち、参加できる人だけで行います。終了後は同様に日報を作成してもらいます。

『無理のない範囲で』がポイントですね。



事例13

人が集まる機会を作る



自治会は住民のためにある組織です。住民同士が顔を合わせ「顔見知り」になることが、すべての活動の始まりではないでしょうか。各自治会では、さまざまなイベントや取り組みを通じて、多くの住民が知り合える機会を作っています。

●公園愛護活動

公園の除草や清掃などの公園愛護活動を、毎月組当番で行っています。活動を通じて、組長を中心にした情報交換が行われることで、組内のつながりが深まればと思っています。

●集会所の活用

集会所に住民が集まるのはとてもいいことだと思っています。集会所で菊の大輪盆栽を作れば水やりにもみんなが足を運んでくれるかなと、検討中です。

●資源物回収

子ども会育成会が中心となって行っている資源物回収に高齢者の参加を呼びかけています。

●花つくりと収穫祭

みんなで花つくりをしています。「三世代交流をしましょう」と、小・中学生とその親、祖父母の世代まで、当番を決めて世話をしています。

最近では花のほかにジャガイモやタマネギも作り始め、年2回、収穫祭のような催しをしています。カレーを作ったり、芋ご飯や豚汁などをこしらえてみんなで食べます。回覧板と広報紙で参加者を募りますが、100人近く集まりますよ。